

論述ブースト No.10

グローバルヘルスを論じる

—— 感染症・医療格差・国際協力を3軸で整理する

目標：医学部小論文で出題頻度が高まっている「グローバルヘルス」テーマについて、感染症・医療格差・国際協力の3軸で構造的に論じる力を養う。COVID-19を素材に「国際的な健康安全保障」の視点を答案に組み込む。

授業の仕掛け（直感への衝撃）

導入：「世界の医療格差をなくすために何が必要ですか？」→「お金と医師を送る」で終わる生徒が多い。しかし持続可能な解決策は「現地の医療システムを強化すること」。

核心：グローバルヘルスの3軸：①感染症の越境性（パンデミック対応） ②医療格差（低・中所得国のアクセス問題） ③国際協力（WHO・ODA・医師の国際貢献）

採点者の視点

採点者はここを見ている —— グローバルヘルス・感染症・医療格差で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

グローバルヘルス・感染症・医療格差では、3軸で論じる構造根拠が答案の質を大きく左右します。

② グローバルヘルス・感染症・医療格差で採点者が見ているポイント

「感染症・医療格差・国際協力の3軸を相互に関連させた答案」が採点者に「グローバルな視点がある」と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所